ふろく

1.　りんたろうSHOBOの趣旨（2008年9月）

素敵に働くこと、そうできる世の中をつくること

・ グローバリゼーション、マルクスが批判した資本主義が世界の隅々に広がった。
戦争、差別、貧困が増大し、労働がEnjoyできないし、食えない。

・ 労働は、ひとのために素敵な、大事な価値をつくること。それは素敵に生きること。
だから、あらためて、“素敵に働くこと”を追求したい。
それは、同時に、“資本に支配しきれない労働”を追求すること。

・ グローバリゼーションに抗するために、賃金労働での資本との闘いと、“資本に支配しきれない労働”を“さらに”作り渦のように大きくすることとが必要。

・ 子供をつくり育てること、食事をつくること、洗濯・掃除をすること、“介護”すること。
絵を描くこと、歌を、文を、ものを、場をつくること。
これらの“非賃金労働”は、“資本に支配しきれない労働”の大事な、強力な候補。

・ 忘れてはいけない、賃金労働が“素敵に働くこと”になることを。店主も３０年、“協同組合の会社”でEnjoyもしてきた。

・ ただ、グローバリゼーションの日本で、今、非正規賃金労働者は３割を超えた。
それは、まず、“生きさせろ！”。

・ “生きさせ、生きる”ためにも、“資本に支配しきれない労働”で資本を包囲する。

2.　Tamikanの野宿者の話　at りんたろう亭「寄り合い」コンセプト

（2010年3月）

社会の価値を作っていくのは人の労働、働き。
なのに、今の社会では作り出した価値を奪われてしまう。
非正規労働者も同じ。野宿者も同じ（アルミ缶1キロ集めて70円、新刊雑誌1冊30円）。
人を支配したくも、奪いたくもないのに、
奪われていることをそのままにして奪ってることもある。
国民投票法施行を前に脱市民の行動が必要。

®Achiyo-letter-head

Achiyo（あくひよ：あちよ）トーク会①（2010.5. 20）**資料：**

QUESTIONAIRE to ACTIVE-HIYOKO

１．どうして、どうやって、今、年収 200 万円以下の人が、結婚できない、子どもを持てない人が、1800 万人もいるのか

今は「恐慌」なのか、「“景気”がよくなれば」いいのか

・1929 年の恐慌は第二次大戦で乗り越えた。
・世界の粗鋼生産量など、1975 年で先進国の成長は行き止まり、労働分配率は横ばい。
・日本の老人医療費無料は 1982 年で停止。1987 年には、中曽根首相の「国鉄の労働組合や総評・社会党をつぶして新しい憲法を制定する」との掛け声、国鉄はじめ民営化促進。
・労組は「労使協調」を強め、2000 年からアジアやアメリカの過剰消費で成長は回復。一方、労働分配率は急減。製造業への派遣解禁。医療費一層抑制。国立大学費１５倍増加。
・“国の景気・成長、企業の景気・成長”という言葉に釣られながら、皆でもがいてきた。
・しかし、企業の内部留保は膨張。それは非正規雇用急増の契機となった派遣業法を改正した 1998 年度以降のこと。
210 兆円だった内部留保は、その後 10 年間で 429 兆円に急膨張。増加額の７割は大企業。

新自由主義、民営化で、成長どんづまり

どんづまりで　「国」のいいなりになれ！！

日本会議、松下政経塾、経団連

つくる会教科書、国歌・国旗法、裁判員制度

２．　でも、みんなの暮らしはよくなったんじゃないのか（1980 年と今）

・1980 年で、最下層の労働者は全体の３割で、高所得層との所得の開きはすでに２倍。しかし、1960 年代、1970 年代の「高度成長」で、「今後も生活向上が続く」という期待感が「中流意識」や「政治的安定感」を生んでいた。一方、石油ショックも経て、企業では、「低成長なんだから会社が大変。会社がつぶれたら元も子ないだろう」労働組合の「資本との協調」が強まった。それを支える日本の「核家族・専業主婦構造、税制」確立。
・その後、国民総所得は 1.8 倍。が、1980 年の最下層の平均年収より低い年収 200 万円以下の労働者が全体の４割の 1800 万人。高所得層との所得格差は 2.8 倍。
・最下層の世帯人員は、3.5 人から 1.8 人に減少。配偶者や子供がもてなくなった。
・30 年間、「国と企業の成長」をみなで追いながら、最下層の労働者の状態は大きく悪化。

つまり食費なんかキリつめてもムリ。だって、コストがあがってるのは、医療、社会保険の自己負担（先進国トップ）、通信費、教育費（先進国無料）なんだから。

３．　一生懸命働いて生きてきた。いけないのか。「奪われる感」はわかるが、私たちが奪っているのか、野宿者や沖縄と何の関係があるのか

・年収 200 万円以下の 1800 万人は、女性を中心としたパート労働者 1200 万人と派遣労働者などを合計した非正規労働者 1740 万人とほぼ同数。
・一方、非正規雇用を推進し、平均年収 800 万円以上の水準を保っている「優良企業」の正社員は 450 万人（1500 万円以上は 58 万人）。彼らも、医療、教育のコストを中心に「生涯、家を１軒持ち、子どもを大学に入れ、親を介護する“普通の”生活」を必死に維持する状態。共通してるのは、労働や働きが作り出す価値が評価されず奪われていること。
・渋谷の野宿者は、「心が折れて働く意欲がない人」というより、「住所がなく働けない」人が派遣切りで生み出されている。

・そんなに働かなくても温泉ぐらい行けてしかるべき、だし、奪ってもいる。
60 年以上、沖縄に基地を押し付けて、沢山の人の命を殺した米軍を置き、「基地か仕事か」で沖縄の人は翻弄され続けている。
その上に、「私たちのカツカツのシアワセ」がある。そんなのイ・ヤ・ダ。

４．　みんな「労働者」

・労働は、ひとのために素敵な、大事な価値をつくること。それは素敵に生きること。
・子供をつくり育てること、食事をつくること、洗濯・掃除をすること、“介護”すること
絵を描くこと、歌を、文を、ものを、場をつくること。
これらの“非賃金労働”は、“資本に支配しきれない労働”の強力で重要な候補。
でも、賃労働の資本との闘いと連携しなければ、“候補”のまま。
⇒**ふろく１．りんたろう SHOBO の趣旨**

５．今（資本主義）のままで“よく”できないのか

「“自由に創意工夫と挑戦”ができる資本主義」が悪いのか

でも、資本ってどうしてできたのかっていうと

・三菱商事の原型：“貧民”岩崎弥太郎は、後藤象二郎の肝煎りで土佐藩の負債を肩代わりする条件で船２隻を入手し海運業を始め、土佐藩蔵屋敷に「三菱商会（後の郵便汽船三菱会社）」を設立。最初に弥太郎が巨利を得るのは、維新政府が樹立され全国統一貨幣制度に乗り出した時のことで、各藩が発行していた藩札を新政府が買い上げることを事前にキャッチした弥太郎は、10 万両の資金を都合して藩札を大量に買占め、それを新政府に買い取らせて莫大な利益を得る。この情報を流したのは新政府の高官後藤象二郎で、今でいうインサイダー取引。

あれっ？競争は自由で平等では？

・資本主義は、他人の労働を支配しないと成り立たない。

６．「資本家」って何

・多くの社長は、「昨日までの同僚の“トップ”」で「資本家出身」ではないかもしれない。そして、彼は言う。「（正）社員と家族〇〇万人の人生を背負っている。だから！効率化と売り上げ・利益の増加を絶えず求めて、会社を大きくし続けなければならない。」
・リコールトヨタは、創業家社長だが持ち株比率は数%。リストラと「下請け抑圧」で業績回復。トヨタの３次下請けは山口組差配による移民労働者。
・立場になると「人の労働を支配し、資本の増殖だけを目的とする資本家階級」

７．「資本主義」は戦争するのか。今は戦争か

・第２次大戦、朝鮮戦争、イラク、アフガニスタン、それを支援する日本
・持てる人ができなくて持てざる人（野宿者）ができること：おにぎりひとつを分け合うこと。その価値を排除すること、奪い合うこと、それは戦争

⇒ふろく２．Tamikan の野宿者の話

８．どうしたいのか

・何でもカネの社会から素敵に働いて分け合う社会へ（たみとや）
・他人の労働を支配する所有の性格を廃止し、一人の人の自由な発展が全ての人の発展の前提となる協同社会（マルクス）

９．「資本主義じゃない」と言うことと

ショップをやっていることは矛盾しないのか

⇒ふろく１．りんたろう SHOBO の趣旨